

HTLV-I母子感染予防対策 (長崎)

日 野 茂 男

要約：長崎県では、HTLV-I 母乳感染を証明するもっとも確実・容易な方法としてきりあによる母乳栄養を回避する介入試験を行っている。この介入試験は1987年8月に始まり、現在1年以上追跡した児の数は、200余例に達しているが、一部に母乳を与えなくても感染したと考えられる例がでてきた。

見出し語：HTLV-I，母乳，感染予防，長崎県

研究方法：我々長崎大学を中心とするグループは1986年までの血清疫学的研究，実験ウイルス学的研究を通して，HTLV-Iの地域内流行の主たる原因は母乳を介して起こっていると考えた。この作業仮説を積極的に証明するには，HTLV-Iキャリア母親による母乳哺育を回避することがもっとも確実であり，またもっとも容易である。

この目的で，HTLV-Iキャリア母親による母乳回避を長崎大学では1986年8月より開始したが，1987年4月長崎県下で長崎大学，国立長崎中央病院，長崎県，日本母性保護医協会長崎県支部，日本小児科医協会長崎県支部が協力し，長崎県ATL母子感染防止研究協

力事業連絡協議会を作り，1987年8月より県下全体を対象とするプログラムに基づいて研究を続けている。一方県外では，この作業仮説を既知の医学的知識と踏まえ，医療行為としてキャリア母親による母乳哺育遮断を進める地域もある。このような方法による，感染防止策の妥当な範囲を検討することも目的のひとつである。

この研究の大部分は”文部省特定研究費バイオがん”および”文部省癌特別研究費”の補助により可能となった。

(1) 長崎県下の産婦人科医で受診した妊婦にHTLV-Iの病原性・感染経路等を説明し，希望者に抗HTLV-I抗体の検査を行う。

(2) 検査は2段階とし，凝集法，蛍光抗体法，

長崎大学医学部

免疫ブロット法により、確実に陽性と判定されるものについて、各産婦人科に報告する。第2段階の検査は、長崎大学医学部と、国立長崎中央病院の2カ所で行い、データの集積を計る。

(3) キャリア母親は出産前に人工哺育にするか、母乳哺育にするかを決める。人工哺育を選択したものについては、希望者にホルモン療法を行い母乳分泌阻止を計る。

(4) 出産後6, 12, 18, 24, 36ヵ月の時点で児の抗体検査を行い、感染の有無を検査する。

(5) 個人情報の秘密保持に関しては、主治医以外の院内職員は患者に対応しない、情報の伝達は直接本人に行う、キャリアのみに対する文書の発行はしない、等万全を期している。

結果：(1) 1989年2月現在本研究は進行中であり、結果を発表する段階にない。

(2) 進捗状況

(a) 長崎県下の妊婦のうち、検査を受けているものは、約80%程度である。

(b) 妊婦の抗体陽性率は約5%である。

(c) 抗体陽性妊婦のうち、人工栄養哺育をするものは約90%である。

(d) プログラム導入以前の母子感染率は20-30%と推定され、母乳栄養哺育による母子感染率は30-40%と推定されるのに対し、人工哺育栄養による感染率は3%以下に見える。

(e) 人工栄養哺育・情報の守秘等に関する問題点は今のところない。

(3) 抗体検査に対する問題点

(a) 市販の凝集法で陽性と判断される妊婦の

約1/3は誤陽性と推定される。

(b) 現在我々が使用している蛍光抗体法は、凝集法よりやや感度が低く、免疫ブロット法は判定法に難がある。

考察：(1) 母乳によるHTLV-Iの感染を介入試験で阻止し、HTLV-Iの母乳感染を証明する試みは、現在のところ順調である。

(2) 現在の検査法では検査対象となる妊婦の約2%にご陽性がで、これを補換する検査法も完全とは程遠い状態にあるため、しんのキャリア率が1%を超えない地域では、妊婦のスクリーニングには問題が大きい。

(3) 母子感染率を20%、キャリアのATL生涯発症率を5%とした場合、キャリア妊婦から出産した児の発症頻度は約1%と計算され、1検体当りのスクリーニングコストを2000円とすれば、キャリア妊婦が1%の地域での1発症例あたりのスクリーニングコストは2000万円に達する。検査法の信頼度の低い現段階では、キャリア妊婦率が1%を超えない地域でのスクリーニングの妥当性は大きいとはいえない。

研究協力：本研究は長崎大学医学部細菌学教室・産婦人科学教室・小児科学教室、国立長崎中央病院、日本母性保護医協会長崎県支部、日本小児科医協会長崎県支部、長崎県、その他各産婦人科医の協力によって行われている。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:長崎県では,HTLV-1 母乳感染を証明するもっとも確実・容易な方法としてきやりあによる母乳栄養を回避する介入試験を行っている.この介入試験は1987年8月に始まり,現在1年以上追跡した児の数は,200 余例に達しているが,一部に母乳を与えなくても感染したと考えられる例がでてきた.